

大野市小中学校再編計画（案）説明会開催結果概要

日 時 令和3年7月3日（土）午後7時00分～8時30分
場 所 小山公民館 1階和室
出席者 小山小学校区住民 23名
教育長、教育委員会事務局長、教育総務課長、学校教育審議監
教育総務課職員3名

顛 末

- ①教育長あいさつ
- ②大野市小中学校再編計画（案）の説明（資料に基づき説明）
- ③質疑応答

参加者 まず1点目、以前の再編計画では、小学校が先、中学校はその後という方針だったと思う。今回小学校が先ではなく、中学校を先に統合することについて、どういう経緯からそうなったのかをお尋ねする。

次に2点目、開成中学校と陽明中学校はどちらも相当古い建物だ。大規模改修や耐震補強工事をしているが、このまま今の施設を使うというのは無理があるのではないかと思う。考えをお聞かせ願いたい。

市教委 1点目の中学校を先に再編することについて、理由は大きく二つある。一つ目は、専門教科の教員がそろわない状況が大きな問題だということである。再編計画（案）は大野市の目指す教育から入っているが、知的な面や情動的な面、技能、技術的な面の環境を整えることによって、人間としてバランスのとれた生徒を育てていきたいと考えている。二つ目は、開成中学校と陽明中学校以外の中学校における部活動の選択肢が少ない状況を、何とか解消できないかというご意見が非常に多くあったことである。その他、三つ目を挙げるとすると、今回は複数の学校の再編になるため、先に行う中学校の再編でしっかり検討、検証し、小学校の再編では無理のない再編としたいということもある。

15ページに、小学校、中学校の施設状況の資料がある。確かに、開成中学校、陽明中学校とも50年近くが経過している。昨年度、全て小中学校の老朽化の状況を調査するために、コンクリートの状況調査をした。その結果、開成中学校、陽明中学校共に、現時点では、大丈夫であるとの結果が出ている。今回の再編では、設備など老朽化している部分は直さないといけないが、大規模改修までは今のところは考えていない。ただし、次の再編があるとなれば、その時には、大規模改修か新築かといった議論を必ずしないといけないと考えている。

参加者 再編の理由に、技術系の先生がいないということも一つの要因とお聞きしたが、なぜ技術系の先生を配置できないのかを教えて欲しい。

資料の1ページに、児童生徒数が減るグラフがあるが、この資料に大野市の人口の推移を付け加えると非常にわかりやすいと思うので、これを提案したい。

市教委 専門教科の教員の配置についてお答えする。基本的に、教員の配置基準は学級数によって決まってくる。例えば、9ページを見ると、今年度の開成中学校の生徒数は、1年生が93人で3学級である。2年生も89人で3学級。3年生が4学級。教員数は、その学級数掛ける1点何倍の数で配置されるので、開成中学校の場合には、家庭科の教員が配置されないという状況になってしまう。それは国語、社会、数学、理科、英語の5教科の教員を優先的に配置するためだ。陽明中学校では全学年4学級ずつあり、教員が学級数によって多く配置されるため、専門教科の教員が全て配置される。上庄中学校、尚徳中学校は各学年1学級で全体でも3学級しかないため、専門教科の教員が配置されないという状況になっている。

二つ目にご提案いただいた人口の件については、再編計画(案)の案を取る際に、大野市全体の人口グラフを入れるなど工夫したい。

参加者 乾側小学校は一番最近の統合事例だが、先行再編準備委員会というのは、何年前にスタートしているのか。

市教委 乾側小学校の先行再編準備委員会は、昨年6月に発足した。乾側小学校は、急遽先行再編が決まったため、1回目を開催したのが昨年6月である。

参加者 通常のパターンだとどれくらい前になるか。中学校を再編してから小学校を検討するのだから、ある程度、技術や問題点を積み上げ確認しながらやっていくのだと思うが、大体どのぐらいの目途で検討委員会を発足するのか。

市教委 中学校が令和6年度に再編する計画になっており、今年度中に案が取れ、正式な計画となれば、令和4年度には早々に立ち上げをしたい。小学校は、中学校の再編が終わった後の令和6年度には立ち上げたいと考えている。

参加者 2年前のスタートと考えれば常識にかなうと思うので、納得した。乾側小学校の時は準備期間中にトラブルは無かったか。

市教委 準備委員会に出席された方々は協力的で、さまざまに議論していただき、比較的スムーズに議論は進んだと思う。

準備委員会はそのようなスケジュールだが、この案が取れた段階で、準備委員会の設置にこだわらず、学校間での交流や合意の細かいことの中で、事前に進められることは進めていく必要があると思っている。

参加者 小山小学校の教職員を有終南小学校に配置するとあるが、全員が行けるのか。

市教委 行けない。福井市や他市町から大野市の学校に通っている方もいる。異動の時には、居住地の学校に帰りたいという希望もあれば、帰ってもらう。統合先の学校に配置できるのは何名か限定になる。

参加者 そのことは、資料に書いた方がよいのではないか。このような書き方だと、

特例措置で全員行けるのかと捉えられる。

市教委 分かりやすいように記載したい。

参加者 中学校で専門教員が不足するのはよく分かったが、市の単費で講師や部活の指導者を雇用していたと思うが、それは今現在も続いているのか。

市教委 部活動指導員は今のところ、開成中学校、陽明中学校、上庄中学校に配置している。上庄中学校、尚徳中学校には、県費で音楽の非常勤の講師を配置している。小山小学校には、複式学級の一部解消ということで県費採用の1人を配置している。

市費では、結の故郷の教育支援員として、通常学級にいる少し落ち着きのない児童生徒を支援する特別教育支援員を配置しており、小山小学校にも現在1人を配置している。その他に教育相談員もおり、市費で多くの支援、相談員を配置している。学級数が多いとどうしても支援を要する子どもたちも多いため、有終南小学校では、支援員を3名配置している状況である。

参加者 そういう充実したものは継続されるのか。

市教委 何とか維持していきたい。

参加者 技術系の先生が配置されてないという学校があるが、配属されてないということは、この学校の生徒は、技術や美術の授業が全くないということか。

市教委 14ページをご覧いただきたい。上庄中学校と尚徳中学校の音楽の教員については、県の非常勤講師を配置している。三角印がついているところは、県に免許外の教科を教える申請をして、例えば、国語の教員が美術を、社会科の教員が技術を教えている。県の教育総合研究所で研修も受けている。そういった状況で授業をしているが、どうしても専門の教員の高い知識や技量に比べると、力は劣る。特に中学生は、小学校よりも高いレベルや技術を要することになり、やはり専門教員による指導はとても大切だと思っている。

参加者 専門性のレベルは若干落ちるが、一応授業は受けているということで了解した。

参加者 統合となっているが、実質的なところ、有終南小学校に小山小学校が吸収される内容かと思われる。吸収されるから、吸収される側が痛手を被るのは当たり前だという考えでこの再編を進めないように、どうかお願いしたい。

登下校のバスについて、国の基準では小学校は4km以上とあり、場合によって対応するということがあったが、小山小学校の子が不利にならないように、基本は小山小学校の校区の児童は全員スクールバス可能とし、乗らない方は、乗らないでいいとは思いますが、そういうようお願いしたい。

公民館の機能を活用して、子どもたちと地域の繋がりを高めていくということについて、有終南小学校でも小山小学校の地域の伝統や歴史を教育してくれるとは思いますが、今まで小山小学校がしていたそういう教育全てを行うのは無理

かと思う。時間的にもマンパワー的にも。そうなると公民館の力、人力が大切になってくると思う。地区公民館の機能を強化するということだが、今回なくなる阪谷小学校、小山小学校の代わりとして、公民館の事業費や人、予算を補填していただくようお願いしたい。やはりお金がないと、何かすると言っても、実際無理だと思うため、どうかお願いしたい。

市教委 登下校のバスについては、しっかり協議、検討させていただきたい。私はどこの説明会でも、学校の大小はあるが1対1の再編であるという話をしている。これは、乾側小学校と下庄小学校の時も同じ基本姿勢であった。地区についても、地区対地区、校区対校区の再編であると思っている。私が50年前に再編された学校に行った時には、小さいところが大きいところに、という感じもした。しかし、こういう基本姿勢で我々も望んでいるので、しっかりバスのことも検討したいと思う。それ以外のことについても、その方針は貫きたいと思う。

一つご紹介する。この説明会の3回ほど前に有終南小学校区の説明会に行った。その時に、PTAのある方が、小山小学校の子たちが来てくれることを、自分の子に置き換えて考えたい、温かく、きめ細かく対応したいとおっしゃっていた。私は、大きい学校の方からそういう発言が出るのは非常にありがたいと申し上げた。また、小山小学校の子が有終南小学校に来てくれることによって、小山小学校の特色も有終南小学校で生かせるとすると、今までの有終南小学校になかった文化が、有終南小学校にもできるということを考えるいいチャンスだと思っているとおっしゃっていた。私はやはり有終南小学校も新生有終南小学校になるべきだと思っている。しっかりやりたい。

3点目の公民館のことについてお答えする前に、本市の大きい改革についてご紹介したい。教育長があいさつで話したが、今回、生まれた子どもから高校生までをつなぎ、高校生の子どもの力を活用することも含め、一貫して教育委員会でやっていくという大きい改革をした。もう一つの大きい改革として、そのまま地域づくり部という名前を掲げ、公民館を地域づくり部の管轄とした。一部、法律で定められている講座などは引き続き教育委員会の予算として持っているが、今回は、地域づくりという看板を全面に出した機構改革を行った。これまでも小山小学校や小山公民館がさまざまな連携をしながらやっているが、再編で小山小学校が有終南小学校に行くと、徐々に地域との結びつきや、地域を調べる活動が手薄になるのではないかと心配されているのではないかと思う。もう既に、区長会にもお願いをして、市長自ら区長会にも出て、地域の課題を考えることをスタートしている。ただそうは言っても、本当になかなか大きい課題だと思う。地域で頑張ろうと言っても、人がいないではないかとか、市役所が何か地域にさせようとしている、ということではなく、何か同じように、一緒になって考え、解決策を見つけていこうという取り組みである。館長はお

そらく相当プレッシャーになっていると思う。小山はここに書いてあるような活動もあるのでこれを充実して、一律に学校で、例えば100万円使っていたから公民館に100万円を持ってくるということではなく、何ができるかについてしっかり考え、私たちも予算も確保するように頑張っていきたいと思うので、どうかご理解をお願いしたい。

スクールバスの件について念のため申し上げるが、小山小学校区の児童全員がスクールバスに乗りたいというご要望があれば、それに沿うような形にしたいと思っている。準備委員会の中で、そういったご意見やご要望が出てくれば、そうさせていただくことになると思う。乾側地区も基本的には全員が乗るようになっている。ご要望等いただければと思っているのでよろしくをお願いしたい。

参加者　今回は資料が素晴らしく、丁寧な説明で大変ありがたい。しっかりと進めていただきたい。質問としては、4ページで、中学校の再編が令和6年、小学校の再編が令和8年ということだが、これは地区の合意を考えずに再編されていくのか、地区の合意があってこそその再編なのかが知りたい。地区の合意を得るとした時に、区長やPTAといった、どこの機関の合意が必要となるのか明確にしてほしい。

8ページの保護者の経費負担について、学年によって制服や体操服を着ない期間が短いから半分だとか100%補助とあるが、児童生徒はこの時期の成長が激しく、去年買った5年生は、半分しか補助してもらえないというのは、かわいそうだと思う。何名が令和6年や8年に対象になるか分からないが、10割の負担を市でしていただきたいと思う。

再編準備委員会について、保護者からの要望は誰に言うと再編準備委員会の方に伝わるのか。例えば、誰に言ってもいいか分からなかったから、して欲しかったことを全然考えてもらえなかった、ということがないようにしていただきたい。有終南小学校や開成中学校には再編準備委員会は設置しないのか。児童の交流や統合式典は、両校で準備を進めるものではないかと思うからだ。

14ページの専門教員の配置について、再編後は令和13年頃まではこの状態で行く見込みとあるが、その間はこの専門教員全員が配置可能なのか。もし不可能な場合、次の再編までは、大野市や県で支援していただき、せつかく再編したのだから、全ての専門教員を配置できるように配慮していただきたい。

市教委　まず、回答を申し上げる前に、我々はこれまで3年間再編に取り組み、今年はこのようにご提案に参っている。それはやはり、過去にいろいろ頑張られた方々やさまざまに考えられた方々の歴史の上に、私たちは居させていただいていると思っている。そのことに敬意を払いながら、今居させていただいているということをお伝えさせていただきたい。温かいお言葉、本当にありがたい。

1点目の合意について、小山地区とどのような形での合意がよいのかという

ことは、地区ごとによってその形が異なるため、協議をさせていただく必要があると思う。ただ一つ言えることは、案を計画にし、実際に進んでいくためには、その地区の合意、了解が必要だということだ。再編の期限もお示しし慎重に丁寧に取り組んできたが、最終的に、着実にということも入れてある。子どもたちにとってどのような形がいいのかを、大人として判断をしていくためには、遅滞なくやっていく必要があると思っている。

2点目の保護者の負担軽減について、過去に再編された学校については、全て、この負担割合でご理解をいただき、補助したという経緯がある。ただ、他の学校でも、全て10分の10にならないかというご意見もあった。このことは、再編準備委員会の中で議論をいただき、最終的に決めていただくことになろうかと思うので、ご理解をいただきたい。

3点目の、再編準備委員会の誰に言えばいいのかについてだが、8ページには乾側小学校の先行再編の準備委員会の構成が書いてある。実際、小山小学校の場合の構成はまだ何も決まっていない。今は再編計画の案も取れていない状況のため、何とも言えないところもあるが、基本的には保護者であれば、おそらくPTAの方が入っていただくことになるかと思う。そのPTAの中で話し合いをしていただき、個々の要望等をPTAの代表の方がお聞きいただき、準備委員会にお持ちされることになるのではないかと考えている。

最後4点目、専門教員の配置について、資料の9ページをご覧ください。令和10年度までは、例えば、令和10年度は1年生が3学級、2年生3年生が4学級となり、この状況であれば全員の専門教科教員の配置が可能だと考えられる。令和11年度に3学級が二つの学年になると、今の開成中学校と同じように、一つの専門教科教員の配置が難しくなる。ただ、今年3月、国が1学級35人とする少人数学級の導入を決めた。福井県では早くから少人数学級を取り入れており、既に中学校に関しては1年から3年生まで32人学級としている。今後、国の基準がまたさらに下がれば、県としても基準を下げる可能性もある。音楽の教員を非常勤で配置しているが、家庭科の教員も非常勤として働ける教員がいれば、配置が可能になってくる。

参加者 可能ということだが、可能というよりは強く推し進めていただきたいと思う。せっかく上庄中学校と一緒にするのに、5年したら専門教科教員がいなくなるとするのはどうかと思う。しっかりと県に要望していただきたい。子どもたちが専門教科教員のいない授業を受けて、子どもたちが物足りない思いをするのはかわいそうなのでぜひお願いしたい。

参加者 大体は文科省が決めている教員の定数というものを動かさない限り変わらないと思う。データを見る限り、令和15年に子どもは120~130人減る。ということは、1クラス30人から40人学級とすると、中学校は1学年1ク

ラスずつ減ることになる。その頃になって、少人数の学級になって教員がまた増えるということもあるかと思うが、これはもう大野市だけの問題ではないと思う。日本全国、少子化・高齢化で、都市の方は多分いると思うが、こういう村部は教員が足りないという現象になるだろう。このことについては、市教委から県教委、県教委から文科省へと強く話を進めていって、もっと早く定員を変えて欲しい。非常勤でと言っているが、今、非常勤の先生もなかなか見つからない状況だと思う。私の知り合いで70歳を過ぎた先生でも、来てくれと頼まれている。特に専門教科の先生に多い。5教科の先生は結構いると思うが、技能・芸術系の専門教科の先生は本当に足りないと思う。この話を、市教委から県教委、県教委から文科省へと、今から15年後を目途にもっともっと早く進めて欲しい。大野市だけではない。福井県内でも小さい市の先生方も大変困っていると思うので、タイアップして話を進めて欲しいと私は思う。よく市で考えていただきたい。

以前は小山中学校があり、それが開成中学校に統合され、今、小山小学校が有終南小学校に統合されるのは、少子化の時代や大野市の財政のこともあり、仕方がないことだと思う。私の提案としては、大野高校の空き教室に開成中学校が入れないかと思っている。今の大野高校は4クラスと5クラスしかないと思うが、1学年9クラスは入れるキャパがあると思う。例えば開成中学校の生徒全員を入れるということは、数年後には可能になると思う。今、高志高校は中高一貫教育ということをやっている。大野市も昔をたどると明倫というすばらしい名前がある。県教委とタイアップした大野市独自の教育を打ち出してもらえるとありがたい。大野高校も開成中学校も小山地籍の新庄に建っているということが、小山地区に生まれて育った私たちにしてみれば、最後の砦かと思う。そういうことも頭の隅っこにある。小山地区には、今、中学校があつて小学校は消えようとしているというのは、時代の流れで仕方がない。開成中学校と大野高校が小山地区の地籍にあるということによって、小山地区の人達の誇りがこれからも大切に受け継がれていくと思う。できるのであれば、そのことも詰めていって欲しいと思う。

小学校が終わった放課後に、公民館で子どもを見てもらえたらという話があったが、市街地の児童館にたくさんの児童が集まることになった時、児童館の施設の老朽化や職員さんの問題がある。私は個人的に西部児童館にお願いされ、おもちゃ病院のドクターとして参加させてもらっているが、結構建物が古く、職員も気がついたらたくさんいて、それでも、もう手がいっぱいだと言っている。0歳児から中学生までをひとくくりに考えるのであれば、児童館のことも考えていただき、何とかうまくいくようにしてもらいたい。

市教委 1点目の教員定数の件について、これはおっしゃる通り全国的なことである。

このことは毎年、市、県、国へ上げており、文科省も財務省との折衝をしているのをご理解いただいているかと思う。今年、40年ぶりに小学校の定員が35人学級に引き下げられ、2年生から3、4、5、6年生と5年計画で、40人学級を35人学級に下げていくことになった。これまで40年間は教員定数の変更がなかった。コロナが一つの理由かと思うが、そのような形で実現していくことになる。今後、中学校へ波及するように我々も要求していくことになると思っている。頑張ってやりたい。

2点目の小山地区に大野高校と開成中学校があるという話についてであるが、次の10年、15年後の再編の際には、校舎の耐久性の話もあり、どういう青写真が描けるかということをも早めに考えていく必要があると思う。もし次の再編があるとしたら、大野の50年100年を見た時に、ほぼ最終形に近いような形になる可能性もある。その際には、高校と中学校、小学校との関係は非常に大切な視点だと思う。

最後の児童館のことについてお答えする。児童館にご協力いただきありがたい。おっしゃるとおり、児童館施設も古くなっており、子どもの安全安心のために、計画的に考え進めていきたいと思う。さまざまな制度があり、放課後子ども教室は文部科学省、児童館は厚生労働省、今後子ども庁ができるとどうなるかは見えてこないが、大野市では、今年度、これらが教育委員会で一つになり、どのような方法が良いのかを協議しているところだ。小山小学校の児童が有終南小学校に行くとなると、場合によっては南部児童センターを自由来館として使うことも増えてくると思う。そうすると定員がどうなるか。今はコロナで学年ごとに曜日を区切って利用しているが、コロナが収束したらどうするかなど、検討することは山ほどある。子どもに関わる課が教育委員会部局で一緒になったのであるから、このメリットを生かしていきたいと思う。

④閉会のあいさつ（事務局長）